

“明るい”パンフレット「次世代を担う若者たちへ」誕生！

1 普及・交流委員会

普及・交流委員会の任務には以下のようなものがある。

1. 初中等並びに高等教育に関わる教員と、化学教育に関心を有する会員との相互交流
2. 化学教育に関する研究発表会・講演会・フォーラム・見学会等の開催
3. 化学・化学技術に関する知識の普及・啓発
これらを遂行する小委員会には次の2つがある。

1) 国際関係小委員会(委員長 伊藤真人)

国際化学オリンピックの新シラバスの掲載項目とレベル(各国の教育内容を反映)を、日本の高校化学教科書の掲載項目(教育内容)と比較し、化学と教育、52, 559(2004)に掲載した。Pacifichem2005シンポジウム、第18回化学教育国際会議やIUPAC化学教育委員会(CCE)関連を担当している。

2) 夢化学小委員会

(夢化学・メディア対応WGを改編。委員長 齋藤幸一)
「夢・化学21」事業対応を中心とした国内の普及活動を担当している。各任務は次の4グループ(Gr)で実行している。

- (a) 化学なゼナニクイズショータスク Gr
新バージョンの作成、ソフトの普及活動など。
- (b) 地域振興タスク Gr
親子対象の実験教室の開催、家庭でできる化学実験の開発、実験指導者の養成など。
- (c) 『わくわく理科タイム』Gr
朝日小学生新聞に連載している。
- (d) 子ども居場所づくり Gr(文部科学省生涯学習局の事業)
科学博物館との連携。

また本小委員会では「夏休み子供実験ショーの実験教室」(日本科学未来館。8月27~29日)や「化学なゼナニクイズショー」の企画・運営を行った。本年度から『化学だいすきクラブ』とも連携の予定である。

2 WG から委員会への展開

従来の化学教育活性化WGと年会フォーラムWGは発展的に解消され、その機能は普及・交流委員会が持つこととなり、化学教育活性化WGのメンバーもその委員となった。

化学教育活性化WGは当初会員増強WGとして発足し、教育会員数の増加を大きな目的としていた。そこで当時は、メンバー自ら様々な研究会や大会に参加し、化教誌のバックナンバーをサンプルとしてつづ入会を呼びかける活動を積極的に行ってきた。また、教育会員にとって最大のメリットとなる「役に立つ」「ためになる」「楽しい」化教誌にするための提案と企画も行ってきた。しかしながら、会員数増加のみを目的とする情宣活動には限界があると考えに至り、「各支部活動の協力を仰ぎながら全国的な規模で化学教育を活発にしていこう。その結果が会員数増大である」という考えのもと、

名称を「化学教育活性化WG」とした。このWGでは化教誌を魅力あるものにするため、「書評」や「知っとく情報」を連載し、「先達からのメッセージ」欄を新設するなど、いわゆる「埋め草」欄の活用にも努めている。また広告収入増を目指し、教材キットシリーズなども担当している。

平成15年1月からは大学生の入会者数の増加を期待して学生割引制度を開始したが、情宣不足のため未だ明らかな効果が見られていない。

3 ノーベル賞とパンフレット

2000年の白川秀樹先生、2001年の野依良治先生、と2年連続して日本人化学者がノーベル賞を受賞の折、本WGは、今こそ化学普及のチャンスとばかり、「化学普及と啓発運動を展開するため小冊子を作ろう」との声に沸いた。本欄では「Take Time by the Forelock」と題して書かせていただいたが、当時は予算の問題などにより具体的な動きには発展しなかった。しかし2002年田中耕一氏受賞と3年連続になると、さすがに実行せざるを得なくなった。そこで高校2,3年から大学1,2年の生徒学生を対象に、日本のノーベル化学賞および生理学医学賞受賞者5名の業績を紹介するパンフレットを作成する運びとなった。構想から2年。ようやく日の目を見た小冊子の表紙には「明るい」赤色のメスフラスコが大写しになっている。化学に対する「明るい」イメージはいやが上にも高まり、日本化学会の「明るい」明日も期待される。

作成に際しては、白川先生、野依先生、田中博士ご自身を始め、福井先生の頁では中辻博教授(京都大学大学院工学研究科、京都大学福井謙一記念研究センター)、利根川先生の頁では山本正幸教授(東京大学大学院理学系研究科、日本分子生物学会会長)と、多くの碩学に検討していただいた。本誌差し込みの『次世代を担う若者たちへ』がこれであり、会員各位にはまずはご高覧の上、幅広くご活用くだされば幸いです。また、入試説明会や新入生オリエンテーションに適していると考えられ、大学などへは、1部100円で販売する予定である。

完成までには、本委員会委員の梶本哲也先生をはじめ監修者の芝哲夫先生や細矢治夫先生、およびデザイナーの逢見雅英氏より多大なご尽力を賜った。また、予算の検討から校正まですべての作成過程を精力的に推進してくださった事務局の小林将浩氏のおかげである。心より感謝いたします。

なお、好評を博し、2刷、3刷と版を重ねるためにも、読者の皆様方のご意見やご要望をお寄せ下さい。

柄山正樹(東京女学館中学・高等学校)

普及・交流委員会委員長

普及・交流委員会委員長:(副委員長)西原 寛(委員)伊藤真人、岩藤英司、大野哲也、梶本哲也、片江安巳、鎌田正裕、亀谷 進、神崎夏子、齋藤幸一、高梨賢英、中臺文夫、丹伊田敏、藤岡和男、渡部智博